関宮学園

学校だより 33 号
R7．3．11

校訓「敬・愛・信」

卒業おめでとうございます

3月11日(火)に卒業証書授与式を行い、9年生19名が、保護者、在校生、教職員に見送られ、関宮学園を卒業していきました。卒業生の輝かしい未来を祈念しています。保護者の皆様、長きにわたり、ご協力ご支援賜り、ありがとうございました。

式辞の一部を紹介します。

この一年を振り返ってみますと、令和六年度の関宮学園は躍進の年でした。運動会や文化祭、生徒会による新たな前期課程・後期課程合同行事の企画、連合音楽会での合唱など記憶に残っていることがたくさんあります。それを引っ張ってくれたのは卒業生の皆さんです。

部活動では、野球部は八鹿青渓中学校と合同チームを結成し、兵庫県大会優勝、近畿大会第三位、そして全国大会出場と関宮学園の歴史に名を刻みました。また、スキー部の個人でも兵庫県大会優勝、全国大会出場の快挙をなし遂げました。

表彰を受けるわけではなく、目立つことはないけれど、日々の勉学に励んでいる姿全力挨拶や全力清掃に取り組んでいる姿、そのような一つ一つの姿に何度も心を揺

さぶられ、皆さんの躍進を感じました。自慢できる誇らしい卒業生です。
　そして、皆さんからはいつも、「自分たちの学校生活をよりよくしよう」「自らの手で明るく楽しい学校をつくろう」という思いが感じられました。皆さんの毎日を見ていると心地よかったです。よりよく生きるために、これからは益々人に求めるのではなく、自ら主体的に行動することが求められます。皆さんには、既にその素養が十分備わっています。これからも向上心をもって前向きにチャレンジしてください。時には失敗することもあるでしょう。失敗はチャレンジの証しです。失敗することを恐れるより、何もしないことを恐れるという生き方を大切にしてください。
　「ほんものはつづく。つづけるとほんものになる。」これは、八鹿小学校の校長先生を務められた東井義雄先生の言葉です。変化の激しい時代です。そのような時代だからこそ、「ほんもの」、物事の本質を大切にしてほしいと思います。自分の中に「ほんもの」があると、変化の激しい時代にあっても「しなやかさ」と「たくましさ」をもって、未来を切り拓いていくことができます。勉学に励み、仲間と切磋琢磨して「ほんもの」を身につけ、「ほんもの」を見極める力を培ってください。

10日(月)卒業式の前日に、卒業生に話をしました。要旨を紹介します。

・卒業生の皆さんには、はじめて出会った時から、好印象をもちました。修学旅行では、温かく旅行団に迎え入れてくれて、うれしかったです。カメラを向けると、満面の笑みとピースサインで応えてくれたことを、今でも覚えています。
・生徒会行事「逃走中」に参加させてもらい、とても楽しかったです。運動会では、みんなと一緒にダンスを踊りました。文化祭は、よりよいものを創造しようとする皆さんの真骨頂でした。たくさん雑談もしました。どれも楽しい思い出です。
・皆さんは、素直で、優しくて、礼儀正しくて、笑顔が素敵でした。そのような皆さんが、部活動の試合になると、戦闘モード突入という感じで、かっこよかったです。
・皆さんが卒業するのは寂しく、このまま、関宮学園に居てもらいたいけれど、次のステージに送り出さないといけません。はなむけの言葉を三つ贈ります。
・一つめは、命は一つであることです。命を大切にしてください。
・二つめは、困った時に困ったとヘルプを出すことです。家族や友達、信頼できる人に相談してください。家族以外にも、これから、たくさんの出会いがあり、その中で必ず信頼できる人に出会えます。もし、信頼できる人に出会えるまでに、誰に相談したらいいか迷ったら、関宮学園の先生に相談してください。関宮学園の先生は信頼できる先生です。太鼓判を押します。
・三つめは、「ケセラセラ」も大切にすることです。 夢や目標に向かって、努力する姿は、尊くて美しいです。しかし、時には、「なんとかなるさ」の気持ちも必要です。
・最後に、特に9年生の先生方は、毎晩遅くまで、みんなの進路について考えてくれていました。先生方への感謝も忘れないでください。